

洪水期を振り返って

大長見ダムでは6月16日から9月30日までの洪水期を終え、非洪水期に入っています。今年の洪水期は県西部を中心に豪雨に見舞われ、各地で家屋の浸水、土砂崩れ、道路の損壊等の被害が発生しました。また10月は幾度も台風が接近し、全国各地で被害がでました。

大長見ダム上流でも例年に比べて降雨が多く、総雨量200mmを超えた大雨が6月19日～21日と8月23日～25日の2回ありました。通常、総雨量200mmを超えることは1年に1回あるかどうかという程度であり、1年に2回もあったのは平成18年度以来です。また、大雨時の対応のための洪水警戒体制は通算11回配備を行いました。



6月19日からの大雨の時の放流の様子

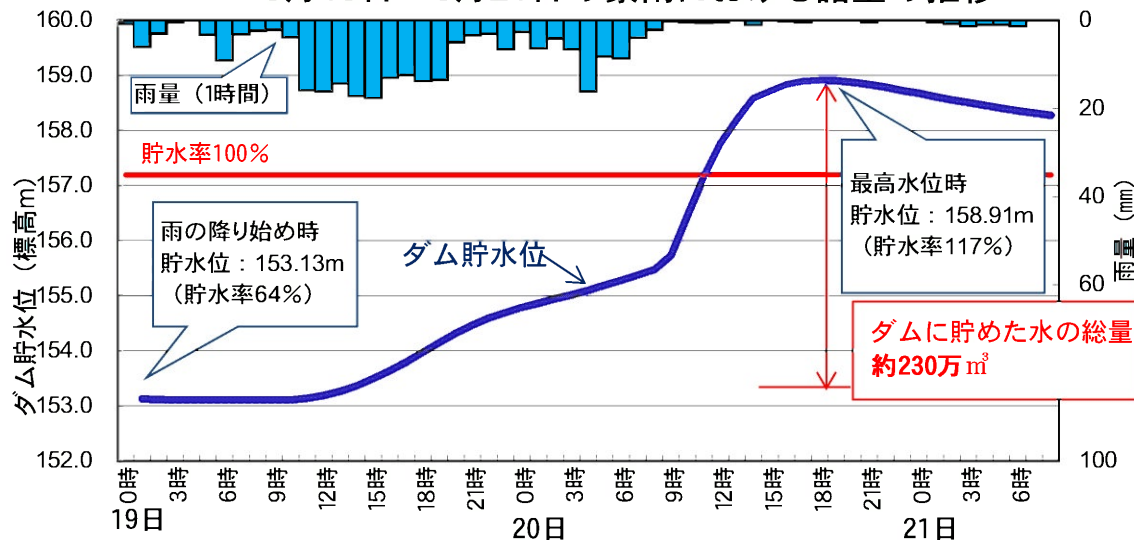


11月の紅葉湖の様子（奥に見えるのがダム本体）

6月19日からの大雨について

6月19日からの大雨ではダム上流で累計雨量267mmを記録し、ダムへ流入した水の量は最大89m³/秒に達しました。大長見ダムでは4月から流入量が少なく、下流へ用水補給を行っていたため、貯水位が通常よりも4m程度下がっており、利水貯水率は64%まで減少していました。今回の雨では約230万m³をダムに貯留し、下流河川の水位上昇を軽減しました。また、この雨で水不足の心配はなくなりました。

6月19日～6月21日の豪雨における諸量の推移



裏面もご覧ください

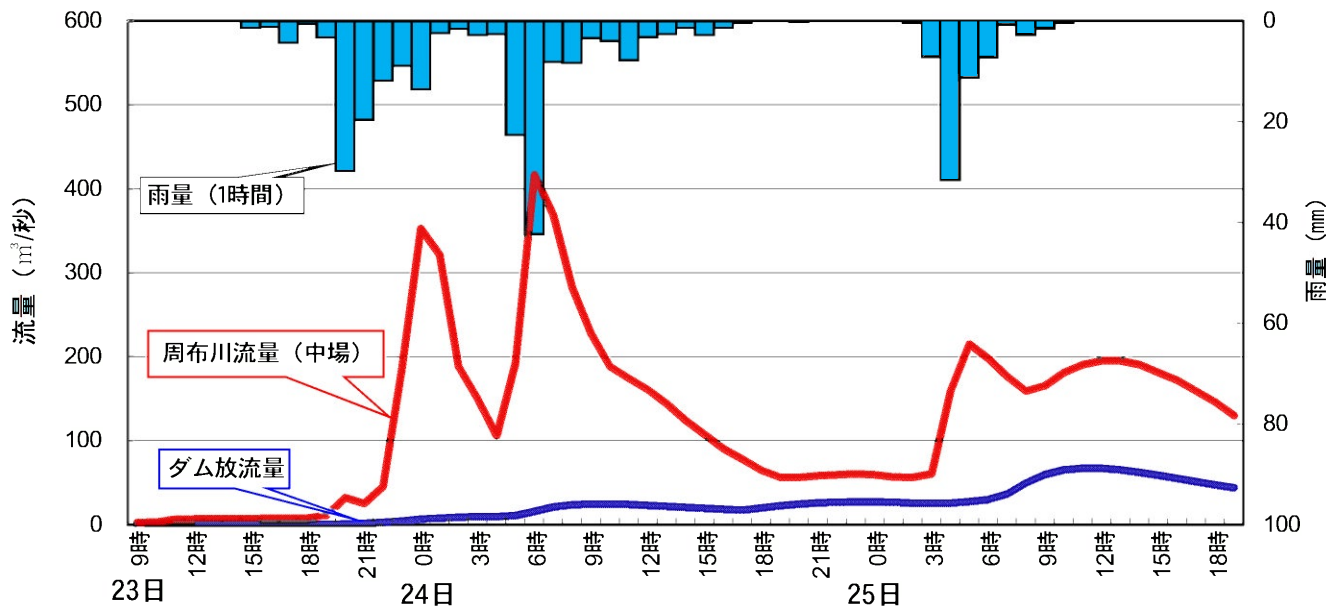


8月23日からの大雨について

8月23日から25日にかけて、浜田市では昭和58年災害に及ぶような豪雨となり、大長見ダム上流では降り始めからの総雨量275mmを観測し、最大流入量は94m³/秒に達しました。

この雨の影響で周布川においても河川の流量が大幅に増えました。下の図は大長見ダム放流量と周布川の流量の記録です。24日6時の周布川流量（中場観測所）は約420m³/秒ですが、ダムからの放流は約40m³/秒しか放流していませんでした。下流域での降雨が特に多かったことから、河川の流量が増えていたことがわかります。また、3日間の大長見ダムの総雨量275mmは平年8月ひと月分の1.6倍の雨となります。

8月23日～8月25日の豪雨における諸量の推移



8月23日からの大雨の時の放流の様子



8月23日からの大雨の時の周布川（松本橋）の様子

編集後記

今年度、島根県内では1時間に100mmを超える雨を観測した地点がありました。このような急激な雨が降ると、河川の状況も短時間で急変しますので、安全だと思っていとも一転、避難等が必要な状況となるおそれがあります。防災ハザードマップを確認するなど、いつでも迅速に行動できるよう備えておくことの大切さを再確認しました。

大長見ダムに関する疑問、質問等ございましたらお気軽にお問い合わせください。

島根県浜田県土整備事務所

御部・大長見ダム管理課

〒697-0041 島根県浜田市片庭町254

TEL.0855-29-5674

